

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	みどりのこども館 通園部ウィズ		
○保護者評価実施期間	R8年1月21日		R8年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	R8年1月20日		R8年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ハビット専門職と密に連携しながら、専門的な視点に基づき支援を行っている。	日々の支援の中で、保護者からの相談内容や職員が捉えたお子さんの様子を共有し、成長や発達を正しく理解できるよう取り組んでいる。また、専門職からの助言を取り入れ、職員全員が共通の支援方針を持ち、一貫した支援が行えるようにしている。	今後も職員一人ひとりの専門性向上を目指し、研修を継続的に実施していく。学んだ知識や技術を日々の支援に活かし、安心して利用できるよう支援の提供に努めていく。
2	業務継続計画(BCP)を作成し、非常災害の発生に備えている。また、災害時に落ち着いて行動できるよう、定期的に訓練を実施し、安全確保に向けた体制づくりを行っている。	月に一回実施しているミニ避難訓練では、地震だけでなく火災を想定する等、訓練内容にバリエーションを持たせている。様々な災害を想定し、避難方法を明確にすることで職員・お子さんともに状況に応じた行動が取れるよう意識して取り組んでいる。	屋外への避難だけでなく、ウィズ館内での避難を想定した訓練にも取り組んでいく。そのためにはまず職員研修を行い、災害時の対応や役割分担について理解を深め、安全な支援に繋げていく。
3	幼稚園との併用や完全移行、就学時の移行に際し、インクルージョン推進の観点を大切に支援を行っている。また、担当者会議等を通して関係機関と情報共有を行い、支援内容について相互理解を深めている。	幼稚園併用の希望があった際には、保護者や園等、それぞれの見解を丁寧に共有しながら話し合いを行っている。お子さん一人ひとりの状況に応じた支援を検討し、円滑な移行に繋がるよう意識して取り組んでいる。	今後は就学先等の職員に事業所見学を行っていただき、顔を合わせて支援内容を共有する機会を検討していく。関係機関との連携をより一層深めることで、お子さんが安心して就学先へ進めるよう取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	市販の簡易仕切りの固定の不安定さ、仕切り設置に伴う段差など、バリアフリー化が十分に進んでいない。	市販のものを工夫して使用することで、安全に過ごせるよう努めているが、市販のものが家庭用であり、事業所向けではないため、強度にも大きな課題がある。	工事により事業所の各部屋、各場所に応じた強度を確保していく。
2	十分な換気が行いにくく、季節や天候によっては室内の温度や湿度が上昇しやすく、適切な室内環境の維持に課題がある。	部屋の窓がテラスに出る大きな扉窓しかなく、子どもの安全を確保しながら窓をあけての換気が難しい。	現在、窓に防犯ロックを装着して開けることで隙間を作り、活動中の換気を試している。安全性を保ちながらの活動が可能であることが確認できたため、今後防犯ロックを増やし各部屋で換気を行っていく。
3	保護者の方に対して、職員の入職、退職の情報が適切なタイミングで伝えることができていない。	これまで年2回発行の「ういずきっず」で職員の入退職の情報を伝えていたが、半年に1度の発行になるため情報が素早く伝えにくい。	連絡帳アプリ「コドモン」で都度配信し、適切なタイミングでお知らせしていく。